

心豊かな「すてきさん」づくり ～ えがお ・ げんき ・ あいさつ ～
かんがえ、やってみる子 いたわり、助け合う子 せいっぱいがんばる子 いきいきと元気な子



雪化粧した富士山を園舎から望む (R7.10.23)

開成町立開成幼稚園

たいよう通信

第7号

発行日：令和7年10月23日（木）

発行者：杉山 孝史

秋の深まりとともに

夏の暑さがようやく影を潜めたかと思えば、ここ数日で急に寒さが増してきました。今日、10月23日は二十四節気の「霜降（そうこう）」です。文字通り、露（つゆ）が外気に冷やされて霜（しも）となる頃。朝の空気はひんやりと澄み渡り、草の葉先には小さな霜が宿ります。山々は紅葉に彩られ、季節は少しずつ冬へと歩み始めています。

そんな中、子どもたちは落ち葉やどんぐりを集めたり、草むらでバッタやコオロギを捕ま



保育室のかごに盛られたどんぐりとまつぼっくり



年少の子どもたちが作ったどんぐりくん

えたりしながら、季節の移り変わりを肌で感じています。これから寒さが増すにつれ、風邪やインフルエンザの流行も心配されます。園では引き続き、「うがい・手洗い・換

気」をこまめに行い、感染防止に努めてまいります。皆さまも、どうぞ健康管理には十分ご留意ください。

サツマイモにほっこい笑顔

5月に年中の子どもたちが植えたサツマイモの苗ですが、秋の訪れとともに立派に育ちました。収穫の日には、保護者の皆さまにもご協力いただき、子どもたちは土に触れながら楽しそうに掘り進めていました。大きなおいもが顔を出すたびに、歓声と笑顔が広がり、畑はにぎやかな空気に包まれました。収穫したサツマイモは、後日給食で調理され、みんなで美味しくいただきました。自分たちで育てたおいもを味わうことで、食への関心や感謝の気持ちも育まれたようです。



笑顔はじけた！ もりフェス

開成幼稚園では、10月17日（金）に秋の恒例イベント「げんきもりもりフェスティバル」を開催しました。



年長児と年少時が一緒に作ったもりフェス人形



年長ダンス「もりフェス・スペシャル・メドレー」



年中ダンス「アロハ・エ・コモ・マイ」



年少リズムに合わせて「にじのむこうに」



閉会式「開成幼稚園・園歌」

今後の園生活に必ず良い影響を与えてくれるでしょう。皆様、本当にありがとうございました。

当日は山神町長様をはじめ、多くのご来賓やご家族の皆様にご来園いただき、子どもたちの演技に温かい拍手をいただきました。

今回のもりフェスは久しぶりに3学年合同での開催としましたが、皆様のご協力のおかげで大きな混乱もなく、スムーズに運営することができました。子どもたちも練習の成果を存分に発揮し、笑顔いっぱい元気な演技する姿が素晴らしい「すてきさん！」でした。

この「もりフェス」を通して、子どもたちは目標に向かって努力することの大切さや、友達と協力し助け合うことの素晴らしさなど、たくさんを学びました。この経験が、



PTA 役員の皆様 アーチをバックに笑顔でお疲れさまでした

箱の中の野菜は・・・??

ふだん何気なく食べている野菜に興味を持ち、好き嫌いなく食べてほしいという願いから、遠藤栄養士が年中学級で給食指導を行いました。



子どもたちの前には、四方を囲まれたブラックボックスが置かれ、数種類の野菜が用意されました。子どもたちは中が見えない箱に手を入れ、手探りで野菜を当てます。

おそろおそろ感触を確かめながら、グループで相談して何の野菜かを想像しました。

「固くてツルツルしてる」「穴がいっぱいある」「レンコンだ!」次々に野菜の名前を言い当てる子どもたちの表情は真剣そのもの。見ている子どもたちからは歓声が沸き起こっていました。

「子どもたちが野菜に興味をもち、苦手なものでも食べられるようになれば嬉しい」 遠藤栄養士の想いは、きっと子どもたちに届いたことでしょう。

令和8年度 園児募集

令和8年4月から開成幼稚園に入園を希望する年少児・年中児・年長児を募集します。

◇入園要項配布 随時配布

配付場所 町役場学校教育課及び開成幼稚園

◇入園申込み期間 11月4日(火)～11月28日(金)

申込み場所 町役場学校教育課

不審者に出会ったら・・・

道を歩いていて不審者にばったり出遭ったら、どのように行動すればよいのでしょうか。先日、年長学級でこのことをテーマに防犯指導を行いました。担任が不審者役となり、一人で道を歩いている子に声をかけ抱きかかえようとする場面を演じました。子どもたちはタッチ・アンド・ゴーという逃げ方を使って、素早く身を守る動きを実践しました。(写真)



この方法は、不審者が手を伸ばしてきた瞬間に地面にタッチし、反対方向へすぐに走って逃げるといいます。身長差を利用して

相手の視界から一瞬消えることで、逃げる隙を作ることができます。今回は一人一人がこの動きを体験し、不審者の特徴を覚えておくことの大切さも知りました。真剣に参加する子どもたちの態度から、防犯意識の高まりを強く感じとることができました。ご家庭でも、道を歩く際の危険や身の守り方などについて親子で話し合ってもらえると、より安心につながります。日頃からの声かけが、子どもたちの安全意識を高めます。よろしくお願いします。



よしとあし

▼今年の夏は、危機的とも言える猛暑に見舞われました。ここ足柄平野でも連日30度を超える記録的な暑さとなり、暑さに対する不安や疲労感が積み重なり、さすがに参ってしまいました。園では、水遊びや涼しい時間帯の活動を工夫することで、暑さの中でも子どもたちの笑顔が輝いていました。友達と声を掛け合いながら遊ぶ姿には、協力する気持ちや思いやりの心が育まれている様子が見られ、日々の関わりの中での成長も感じられました。厳しい気候の中でも、子どもたちの前向きな姿勢とたくましさは印象的な夏となりました。▼我が家では冷房器具に加え、玄関先によしとあしを立てかけて暑さ対策をしました。外からの照り返しを防ぎ、風通しが良くなり、室内の温度も和らぎます。昔ながらの工夫の効果を実感しました。こうした昔ながらの工夫を取り入れることで、現代の暮らしにも心地よさが生まれるのだと改めて感じました。▼ところで、よしとあしに使われる「よし」と「あし」は、実は同じ植物で、「あし」が「悪い」に通じることから、縁起を担いで「よし(良し)」と呼ばれるようになったそうです。江戸時代の仙厓(せんがい)和尚の句「よしあしの中を流れて清水かな」には、善悪の間を清らかな水が静かに流れる様子を讀んだものです。この句には、人の心の在り方や自然の美しさが込められており、私たちに深い気づきを与えてくれます。▼子どもたちは日々の生活の中で、嬉しいことや悔しいこと、時には間違いや失敗も経験しながら、少しずつ成長していきます。けれども、親としてはつい、子どもの「悪いこと」ばかりに目が向き、一方的に叱ってしまうことがあります。しかし、そうした失敗や葛藤こそが、子どもにとっては大切な学びの機会です。良いことも悪いことも、すべてが心の清水となって流れていく——この句のように、子どもたちが経験する一つひとつの出来事が、やがて清らかな流れとなって、豊かな人間性を育んでいくのだと思います。大人はその流れをせき止めるのではなく、そっと見守り、必要なときに寄り添う存在でありたいものです。

